デザイン情報学科新入生向け PC に関するアドバイス（2027 年度版）

1. パーソナルコンピュータ（PC）購入にあたってのデザイン情報学科の考え方

意外に思うかもしれませんが、デザイン情報学科（以下 デ情）では **PC 購入を強制しておらず、PC 持参を必須とする科目もありません**。しかし、経済的に無理のない範囲で PC をはじめとした情報機器を保有することは、今後の学生生活において大きなプラスとなることも事実です。だからと言って購入を焦る必要はなく、これから入学する人は、ひとまず 1 年次の前期期間中はじっくり様子を見てから夏以降の PC 購入を検討しても遅くありません。

特に、無理して最初から高性能な PC を購入しても 1 年生の授業内容ではさほど使わずに性能を持て余すかもしれませんし、逆にみなさんが 4 年生になって高度な卒業研究・卒業制作を行う頃には 1 年次に買った PC の性能が時代遅れになることも十分あり、それまでに故障して寿命を迎えることさえもあり得ます。よって、自身が在学中に PC を「どの程度」「どのような分野」に使うのか把握できた段階で、無理・無駄のない購入計画を立てるようにしましょう。

2. デ情の推奨機種と、デ情生の PC 保有状況について

当学科では **PC の種別に関する推奨や指定はしていません**。Mac（Macintosh） / Windows いずれかであればどちらを選んでも不公平にならないよう配慮しています。また、ラップトップ（ノート型） / デスクトップの種別もどちらでもかまいません。また、デ情が扱う専門分野は多岐にわたることから**一律な推奨スペック（性能・仕様）も特に定めていません**が、2 ページ目にごく簡単な目安を示しますので、不安な人はそちらをご覧ください。

デ情生の PC 保有状況について、2 年生の時点で自分専用の PC を所有している人の割合は例年 9 割前後になります。内訳としてはラップトップ型 Mac が多数派となりますが、映像コンテンツや CG、ゲーム制作などを志向する人は専用 GPU を備えた WindowsPC を選択する傾向があり、美大の中では比較的 Windows ユーザーも多い学科です。また、近年では PC に加えてタブレット端末（iPad 等）を併用する人も増えています。ただし、タブレット端末だけでは課題制作に対応できない場合も多いことから、PC の代わりとしてタブレットのみの単体保有は推奨しておりません。

3. 昨今の半導体価格上昇を考慮した PC 購入計画

各種メディアでも報じられている通り、半導体価格の高騰が続いており、それに伴って PC の本体価格も上昇、あるいは品薄で入手しづらい状態が続いています。さらに昨今の円安も追い打ちをかけ、数年前に比べて PC 購入の敷居が高くなっており、これから購入を計画する人にとっては悩ましい状況です。今後の価格推移を予測することは大変難しいのですが、だからと言ってさらなる価格高騰を心配して**駆け込み需要的に焦って高価な PC を購入するのも考え物**です。大学入学を控えたみなさんとしては、このような時代だからこそ、無駄な出費を防ぐために PC のスペックに対する正しい理解が不可欠であり、**自分に必要な PC の性能を自分で判断できる十分な知識を身につける**ようにしましょう。

また、PC の技術面を見ても現在は転換期にあたります。旧来の PC では CPU や GPU などのプロセッサ、メモリ、周辺回路などを複数のチップに分けて基板上に配置していました。しかし近年はそれらを統合した SoC（System on a Chip）というものがラップトップ機を中心に主流になりつつあります。例えば Apple シリコンをはじめ、Intel Core Ultra、AMD Ryzen AI、Qualcomm Snapdragon、NVIDIA RTX Spark などが代表的で、今後もこの流れは続くものとみられます。一方で、自分で細やかにパーツを選んで性能をカスタマイズしたい人や、高騰が続く**メモリを後から増設したい人、CPU や GPU などを将来的に換装したい人は、デスクトップ機を選択するのも経済面でよい判断**と言えます。

4. 授業での PC 活用について

デ情には比較的高性能な PC を備えたスタジオ（教室）が 3 部屋あり、それらのスタジオでコンピュータを用いた授業を行います。よって **PC を持参せずに授業を受けることが可能**です。また、課題制作や自主制作用途に PC などの各種機器の利用が可能な専用の部屋を用意しており、授業のない空き時間や放課後に利用ができます。

※授業科目によっては Windows PC の教室を使用しますが、もちろん Mac ユーザーも受講できます。逆に Mac の教室を使用する科目であっても Windows ユーザーも受講できます。PC の基本操作説明については必修科目の序盤で行います。また、Windows / Mac のうちいずれか一方のみしか存在しないソフトウェアを使用する科目はほぼありません。よって自分が保有する PC の種別を気にすることなく授業を履修できます。

5. PC を購入する際の仕様（スペック）の目安

PC の機種選定にあたっては仕様・性能への正しい理解が不可欠ですが、ここで全てを説明することはできません。分野によっても要求されるスペックが大きく異なりますが、不安な人は以下の表の項目を満たせば当面は問題ありません。下段の分野別アドバイスも参考にして下さい。

表：スペックの目安（ノート型・デスクトップ型の種別はどちらでも可）

	Mac (Macintosh)	Windows
CPU	Apple M3 以降のチップ搭載機種（推奨：M5 以降）	Intel Core i5 / Ultra5 もしくは AMD Ryzen 5 / AI 5 相当以上（推奨：Core i7 / Ultra7 もしくは Ryzen 7 / AI 7 以上）
メモリ	最低 16GB 以上（推奨：24GB 以上）	
ストレージ	最低 256GB 以上（推奨：512GB 以上の SSD）	
画面解像度	最低 1920×1080 ピクセル以上	

※CG やゲームなどデジタルコンテンツ分野を目指す人は、上記に加え NVIDIA 社の GeForce RTX シリーズに代表される GPU（Graphics Processing Unit）搭載機種を推奨します（GeForce RTX 5060 相当以上を推奨）。なお、最近発表された同社の SoC である RTX Spark の搭載機種はクリエイティブ分野からも注目を集めていますが、現時点では大変高価であるのと、従来の一般的な Windows PC とは異なる Arm アーキテクチャであるため、授業で使用するソフトウェアが全て対応していない可能性もあり注意が必要です。

大学生活における PC 注意点

- 自分の PC の基本スペックや端子類の有無は把握しておくようにしよう（プレゼンテーションや展示利用の際に必要）。
- 光沢画面搭載機種は発色が鮮やかだが、教室で授業を受ける際に天井の蛍光灯が反射して見づらいこともある。
- 4K 以上の高解像度や 120Hz 以上の高リフレッシュレートの画面を搭載する機種は電力消費が激しい傾向にあり、朝から夕方まで授業がある日はバッテリーが持たない恐れがある。
- 意外と重くてかさばる AC アダプターの大きさや重量も事前に確認しよう。予備のアダプターを購入して大学ロッカーに置くのも一つの方策。USB Type-C で充電可能な機種だと市販の小型充電器が使えてスマホとも共用でき便利。

6. 分野別の簡易アドバイス

デ情で扱う分野は多岐にわたるため最適な推奨 PC スペックを一概に述べることはできませんが、以下に簡単な指針を示します。これらはあくまで目安ですので購入時は自分自身でスペックをよく調べるようにしましょう。

- **ビジュアルデザイン全般（グラフィックデザイン、プリントメディア、タイポグラフィー等）**
  ラップトップ型 Mac が多数派で、将来デザイン業界に就職しても Mac が主流となります。サイズについて、頻繁に持ち歩く人は 13～14 インチが適しており、逆に自宅での使用が中心の人は 15～16 インチを買っておくと良いでしょう。
- **イラストレーション、アニメーション、マンガ等**
  当分野も Mac が主流ですが、ゲームとの親和性が高い領域でもあるため Windows ユーザーも増えています。なお、PC 本体の性能のみに予算を割くよりも、描画用タブレットなど周辺機器を充実させる方が良い傾向にあり、iPad 併用者も増えています。
- **デジタルフォトグラフィ**
  当分野で最優先となるのは画面における色の正確さです。ビジネス向け PC など、一部の Windows ラップトップ機は液晶ディスプレイの発色が劣る場合があるので注意しましょう。カラーマネジメント可能な外部モニタの導入も良い選択肢です。
- **ウェブデザイン、ネットワーク分野**
  ソースコードの編集が多くなる人は、ラップトップ PC を選ぶ際に一般的な 16:9 の画面比率ではなく、最近増えつつある 16:10 や 3:2 の比率の製品を選んでおくと縦寸が長く効率的です。自宅では外部モニタを縦向きに接続して使う人もいるようです。
- **デジタルコンテンツ（映像、CG、ゲーム制作、VR/AR 等）**
  最も PC 性能を要する分野です。可搬性を多少犠牲にしてでも性能を優先しましょう。特に GPU の性能と、それを支える放熱対策が重要です。当分野では Windows のゲーミング PC 利用者が増えており、より高性能なデスクトップ機を選ぶ人もいます。
- **メディアアート、電子工作、インタラクションデザイン等**
  センサーなど各種デバイスを組み合わせることも多いためその相性が重要となります。一概には言えませんが、Mac の方が設定なども比較的シンプルに済む傾向があるようです。あとは入出力端子が豊富な機種が何かと便利です。
- **サウンドデザイン、音響・音楽分野**
  大がかりなプロジェクトでない限り PC の性能や種別はさほど問われませんが、DAW（統合音楽制作ツール）やプラグイン音源、音響機器などの予算も想定しましょう。音楽制作ツールは値引きセールが多いので、焦って買わず安い時期を狙いましょう。
- **モバイルアプリ開発、アプリケーションデザイン**
  iOS や iPad OS 用アプリ開発を想定するなら、その開発環境は Xcode、プログラミング言語は Swift が主流であることから Mac の方が適していると言えます。Android 版アプリについてはどの PC からでも開発が可能です。
- **AI 研究、各種 AI サービスの利用**
  造形美術分野でも AI の利用が広がっています。既成 AI サービスの多くはクラウド環境で利用でき PC 性能を問いませんが、ローカル環境（自分用 PC）で当分野の研究や画像・映像の生成を行う人は GPU 性能（特に VRAM 容量）を重視しましょう。

7. ソフトウェアについて

PC 購入の際はソフトウェア（以下 ソフト）の費用も考慮しましょう。一部のソフト（AdobeCC、Microsoft365 など）は大学から在学期間中に利用できるライセンスが提供されます。また、近年は学生向けに無償・廉価で提供される学生版ソフトも増えており、これらは学生の特権として大いに有効活用すべきですが、一部の学生版ソフトは学習目的に用途が限定される場合があり商用利用を認めていないことがあります。よって販売を想定した作品制作や、アルバイト業務、クライアントワーク等に学生版ソフトを利用する際は、使用が認められるかどうかについて、ライセンス条項の確認が必要です。いずれの場合でも**正規ライセンス品の使用が重要で、違法コピー品は絶対に使用してはいけません**。

8. 本学学生向けの特別割引制度

Apple 社製品や Wacom 社製品など一部のメーカー品は本学の学生向けの特別割引制度があり、市販の学割価格よりもさらにお得に購入できます。詳細は入学後に学内ウェブサイトから確認できます。
※モリサワフォントは市販の学割価格での購入となりますが、**入学後に授業で使用する際に改めて案内します**。そのうえで必要に応じて、任意で購入を検討してください。

9. オンライン授業のために

デ情の専門科目はほとんどが対面授業ですが、ごく一部はオンライン開講やオンデマンド授業となる場合があります。それらを受講するためには通信環境の準備が必要となります。自宅からのインターネット接続のためには、通信環境を私費で用意していただく必要がありますが、大学キャンパス内でのインターネット接続には MAU-WiFi および MAUSPOT という名称の Wi-Fi（無線 LAN）を PC やモバイル端末（スマートフォン、タブレット等）で利用できます。

10. AI の適切な利用について

AI、特に生成 AI は美大生の学生生活にも大きく入り込んでおり、既に多くの在学生も日常的に様々な場面で生成 AI を使用しています。本学、およびデ情としても**適切な生成 AI の利用は推奨するスタンスですが、過度に依存しないよう心がけましょう**。また、授業課題への AI 利用に際しては注意が必要となります。これに関して本学では「レポート及び論文等作成時の生成 AI 利用に関する注意事項」を公開しています（右記 QR コードより閲覧できます）。課題制作等に生 AI を利用する際には、こちらのガイドラインを遵守するほか、教員の指示に従う必要があります。

11. その他、補足事項など

情報機器の利用にはメディアリテラシー（メディアを読み解き、適切に使いこなす能力）が不可欠です。また、日ごろから PC のメンテナンスや大切なデータのバックアップなども心がけ、自己管理を怠らないようにしましょう。

不明な点や質問があれば入学後にデザイン情報学科の教員・スタッフに相談してください。